

FRIENDS

 The Friendship Force of Saitama 会報 第62号(2004)

ゆかたに兜でサンバ!!

ブラジル クリチバからの陽気なアンバサダー

ED 堀内 美紀子

30名のアンバサダーと2人の小さな大使が加わった大所帯の受け入れは初めてだったのではないのでしょうか。埼玉クラブでは通常21名の受け入れですが、昨年12月早々に30名のアンバサダーリストがいきなり送られてきたのには驚きました。そのうちキャンセルがでて少なくなるのではと高をくくっていたのですが、アンバサダーの変更が出てきましたので、その後キャンセルがあっても追加しないように要望していました。

6月に交換委員会を発足させ、交換委員の方々にはそれぞれの担当に分かれ、責任を持って協力をいただきましたので、3ヶ月という短い準備期間となりましたがスムーズに運ぶことができました。山形へ送り出す時にちょっとしたハプニングはありましたが、すぐに解決できました。みなさんのお蔭で無事に受け入れを終えることができました。

その中でホストファミリーをお願いするにはひと苦労でしたが、一番心配していた4人家族を引き受けてくださった宇田さんには感謝でした。また、当てにしていたホストの方に断られた時には途方にくれ、事情を知った体調の優れない会員の方から快く返事をいただいた時には頭が下がる思いでした。しかし岸田さん、佐藤さんがそれぞれ3人の受け入れを申し出てくださり、私の娘には2人のアンバサダーのホストを頼み、無事マッチングできたときはほっとしました。

また、昨年のミンスクを受け入れた時と同じく、ピ

ザの申請書類を用意する必要などがあり、メールのやり取りの中で、なかなか返事がなかったときには少々困りました。キャンセルがでた時は追加しないでほしいという要望も聞き入れてくれず、来日一週間前にアンバサダーの変更があったりで、まだ見ぬ友人たちにお国柄なのだろうか、不信感を抱き始めていました。

しかし、成田で出迎えた時には、さぞかし長旅で疲れていると思ったのですが、バスを待っている間全員で写真を撮ったり、笑顔で陽気な姿を見て不信感などすぐに忘れてしまいました。

今回の受け入れはクリチバクラブからだけでなく、リオデジャネイロ、サンパウロ、ブラジリア、レシフェ、ジョンペソアの六つのクラブからの参加でした。また、オーストラリア・サンシャインコーストの友人の参加もありましたので、八つのクラブの交流となり、いつもと違った出会いとな

り、この埼玉で互いの友情を築くことができました。これもフレンドシップ・フォースクラブの魅力ある活動だと思います。

このフレンドシップ・フォースの活動はご存知の通り、受け入れと渡航が主な活動ですが、特に、これからも受け入れをするときには会員がごぞって協力し合い、助け合い、互いに楽しみ、積極的に交流し、友情を深めていってほしいと思いました。最後にこの交換に協力していただいた皆様に感謝いたします。



受け入れハイライト

越谷市 宇田 祐子

毎日とても賑やかに過ごし、楽しい交換でした。3才のイザベルと1才のガブリエルは時には天使、時には××…。パパとママはそんな二人の子育てにとっても一生懸命でした。

私自身、子どもが小さい時から経験を家族で共有したいと思い、いろいろな所へ出かけてきたので、自分の思い出も重なって、子育てのことも含め、たくさん話をしました。もっともっと話したかったです。

久しぶりにベビーカーを使う生活をし（自分にとっては10年ぶり）人の優しさにも触れました。

最後の日はたっぷり昼寝をした後、東京湾納涼船に、ゆかたを着てでかけました。エキサイティングな楽しいイベントで、船からおりる時には抱き合ってキスして、再会を約束しました。いつの日か近い将来、クリチバで少し大きくなったイザベルとガブリエルに会い、パパやママともまた子育てについて話の続きができたらと思います。

さいたま市 佐藤 ゆきえ

Neydeさんは今年6月に80才の誕生日を迎えたグループの最高齢者でした。我が家のゲストルームは二階にあるので、実際にお会いするまでは、ご不便をおかけしないかと心配していましたが、成田空港でグループをお迎えし、少し離れた場所から私を認めた彼女は、笑顔とウインクで応えてくれました。その時、私の心配は杞憂であったことがわかりました。

80才にもかかわらず、小さな手帳にポルトガル語と英語の日常語対比を、赤と黒の文字でピシッと書き込んで、この交換に備えてきました。どこかに出かけると、地名と感じたことをすぐに書き留めていました。日本語にも興味を示し、きのう、きょう、あした、あさって等と手帳に書き込み、一生懸命覚えようとしていました。

いつもおだやかな笑みを絶やさず、グループ全体で集まる時には、同行した小さな孫の面倒を見、音楽が聞こえると、すぐにリズムをとり身体を揺らす姿には感嘆し、私もあんなふうに年を重ねられたらと思いました。夫と私が滞在中、ママと呼んでいたNeydeさんでした。

所沢市 牧野内 豊子

地球の裏側からの我が家への初めてのお客様、不安もありましたが、メールでのやりとりから何となく気の合いそうな方のように思われました。いろいろ話していて、ブラジルでは10回も受け入れをしているとのことで、とても気を遣っていただきました。

畳に布団を敷くのはご主人の仕事で、毎朝毎晩きち

んと出し入れして完璧でした。奥さんが一週間の中ほどで風邪をひいてしまい、後半のスケジュールが変わってしまいましたが、遠い国からの旅で疲れていらっしまったようでした。家でゆっくり休養していただいたのもよかったなと思いました。

書道を体験してもらい、作品を仮巻き表装にして差し上げたら、とても喜んでくださいました。最後の夜は、たまたま我が家の孫娘（3歳）の誕生日だったので、さよならパーティーとバースデイパーティーを兼ねて楽しく過ごしました。今回はデイトホストの方いろいろな助けをいただき、なんとか無事に送り出すことができました。ありがとうございました。

それにしても皆さんの先のスケジュール（注：帰国は1ヵ月後）を聞いただけで凄いパワーを感じました。



布団を敷くのはご主人の仕事

川口市 綿部 恵美子

初日ドアの外で靴を脱ごうとしたり、部屋からサンダル（スリッパでない）で出てきた時、仕方ないですがちょっとびっくり。私のゲストはブラジル人なのにコーヒーが嫌い、肉料理も好まず、あのスリムさで分かるよう、非常に健康に気をつけていました。

9月5日、奥様に電話して、いとこの娘が日本にいたことが分かり、メモの番号で電話をかけたなら本当にいて、しばらくポルトガル語で話をしていました。自分の国でも会ったことも、話したこともなかった親戚に日本で話ができたといいわけです。「ヘー」という感じです。相手の女性も10年ぶりにポルトガル語を使ったらいいです。

とにかく大変きちんとしたよい人でした。道も覚えて、我が家の周りを一人で2時間も散歩できるくらいです。時間があると散歩と言い、一人で出かけては周りを見て歩き、迷わず戻ってきました

受け入れハイライト

さいたま市 淡路 千夏子

母からホストを頼まれたとき、わくわくする反面、二つの不安がありました。一つは、2才の息子がゲストの方に迷惑をかけないか、もう一つは今まで外国の方と接する機会がなかった主人のことでした。

しかし、カルロスとイヴェッテは息子をとてもかわいがってくれ、息子も教わったポルトガル語で二人を「ヴォヴォ」と呼び、いつもそばではしゃいでいました。

また、主人も時間を見つけては、ブラジルの生活や街の話に花を咲かせ、素敵なお夫妻との出会いを心から楽しんでいました。他のたくさんのゲストの方との出会いもあり、あっという間の一週間でしたが、見送りのときには「ヴォヴォ！」と泣きじゃくり見送る息子の姿をみて、このような機会を与えてもらい本当によかったと思いました。

最後に私たち家族が楽しく過ごせたのも、周りの方のご協力があったからだと思います。ありがとうございました。

白岡町 日下田 由貴恵

天真爛漫な Josimeri、穏やかな Maria。

「ユキ、歌を歌いましょう。私たちは sukiyaki Song、あなたは Garota De Ipanema、歌うから憶えてね」そんなセリフで始まった歌の練習。歌もダンスも大好きで、リズム感も最高の彼女らはあっという間に、苦労もせずに Sukiyaki Song を憶えてしまいました。しかし私は、初めてのポルトガル語の発音に四苦八苦、おまけにリズム感もダメ。変な日本語と変なポルトガル語の歌が朝に晩に聞こえる我が家は、近所からはきっと不思議な館だったことでしょう。

「ユキ、私たちは低く小さな声で歌うから、あなたはしっかり Garota De Ipanema を発音するのよ。覚えた歌を皆に聞かせるわよ」そんな感じで私たちのフェアウエルパーティーは始まりました。

そして彼女らが山形へと出発した月曜日の夜、子どもたちと3人で囲んだ夕食で、

「二人がいなくて寂しいね。火が消えたみたい。ユキ、タタ、アヤって呼ぶ声が聞こえないね」この子どもたちのセリフに思わず、受け入れを一度やったらやめられないのはここだなあ！と、感動してしまいました。

武蔵野市 岡田 一夫・久仁子

26時間を超える長旅にもかかわらず、にこやかな笑顔でONライナーから降り立ったオデッテ・ナイルとアナ・マリアの二人が我が家に着いたのは午後7時半頃、早速シャワーを浴びて着替えを済ませ、8時過ぎにささやかなウエルカムディナーが始まりました。「サウディ!!」の発声で乾杯、鰯の焼き物をメインに、お赤飯、味噌汁、茄子の生姜焼き、モズク、ほうれん草のおひたし、胡瓜の漬物という純和風の食事でしたが、母国で和食に慣れているせいか、箸を上手に使用して、美味しそうに全部キレイに味わってくれてひと安心。後日更にうどん、おにぎり、お餅、煮物、寿司、天ぷら、饅頭など何でもござれということがわかり、ホストとしては大助かりでした。二人ともクリチバでは近所同士の仲良しでとても話し好き、お互い不自由な英語でも、笑いの絶えない間柄になるのにたいした時間はかかりませんでした。

ウエルカムランチの後は、盆栽村見学、都庁展望台からの夜景と、日没直後の富士山の姿や東京タワーを遠くに見て、盛んに「ワンダフル!!」を連発。

東京見物の朝は、満員電車で揉まれ、夜は我が家で友人を亭主にティセレモニーを体験、猛暑の中のツアーを終えて、ややばて気味でしたが日本文化の一端に触れてもらいました。

最初のフリーデイは、牧野内さんのアンバサダー、

ヴィンセンテ・ドゥルス夫妻と一緒に、星子幹子さんや青笹展子さんの案内で御岳山・奥多摩湖までエクスカッション、御岳山ではケーブルカーとリフトを乗り継いでクリチバとほぼ同じ標高の展望台まで行って、眼下の景色を見下ろし、また久しぶりにひんやりした冷気に触れました。

翌日の文化体験で

は茶の湯を楽しんだ後、全員ゆかたに着替えて大はしゃぎ、次いで炭坑節やサンバを皆で踊った時の様子は大きな思い出となるでしょう。

フェアウエルパーティー当日は渋谷にあるNHKスタジオパークを見学、記念撮影用の新撰組のセット前で陣羽織に刀を持って記念写真を撮ったり、別の部屋ではマイクを前にポルトガル語で、モニター上の原稿を読むアナウンサーを体験したことが楽しかったようです。



「イパネマの娘」を歌う日下田さん

受け入れハイライト

アツという間の最終日、毛筆で「於出手奈伊留」、
「亜那麻理阿」と書いて掛け軸に仕立てたあと、武蔵
小金井の「江戸東京たてももの園」を見学しました。そ
こで見た、ひと昔前の農家や家屋、商家などが彼女た
ちの日本建築に対するイメージであったようで、林立
する高層ビル群、大きなマンションなどを目の当たり
にしてビックリしていました。いつものことながらわ
ずか一週間ですが、ホストを引き受けて文化や言語の
異なる人々との心からの交流ができて大変うれしく思
っています。

さいたま市 須藤 淑子

歌い、踊り、笑い、出会いの喜びをハグ、キスで伝
える陽気な人たちだった。

アルレテとクレリスは仲のよいいとこ同士、また未
亡人同士で、共によく旅する旅慣れた人達。アルレテ
は好奇心旺盛で何事にも感動する進取の気性に富んだ
人。右足が少々不自由で英語の苦手なクレリスを優しく
心遣っていた。布団の上げ下ろし、テーブルの片付
けなど、私への気配りがあり、その上、時間にも正確
な申し分ない人たちだった。

最後の夕食の締めには、おみ
やげのサンバのCDをかけた。
美人で淑やかと思ひ込んでいた
クレリスが、リズムに乗って楽し
げに踊りだした。それも前の
晩に覚えた炭坑節の振りで。夫
の郷里の秋田音頭を流すと、そ
れも炭坑節の手振り足踏みで乗
ってしまう。掘って、担いでの
ユーモラスな動作が気に入って
か、チョチョンガチョン一辺倒。

涙が出るほど笑い転げ、踊りまくった別れの夜だっ
た。



「福笑い」

日本文化体験では全員が浴衣を着てのプログラム、
私にとっては自分でも着られないのに、着せてあげる
なんて、さあ、どうしましょう。冷や汗たらたら、助
けていただきながらの着付け終了。忙しい日もありま
したけど、自国の文化を学び、再体験するチャンスが
あったことを本当に感謝しています。

蓮田市 岸田 節子

ブラジル各地から長い時間をかけて、やっと我が家
に着いたアンバサダー、さぞかしお疲れになられたこ
とであらう。

ご主人が日系二世で、一見日本人そのものの藤井幸
夫氏と陽気な奥様のベルナルダさん、そしてリオデジ
ャネイロからのマリアさん。ユーモアたっぷり、い
かにもサンバの踊りが似合いそうな雰囲気がある。私
たちと同世代という事もあり、楽しい時間を共有でき
そう。遠出よりも近くという希望もあり、家の近く
の見沼用水沿いや、色づいた田んぼ道を散歩した。

フリーデイには川越の町、盆栽町の散策を楽しんだ。
静かな盆栽町の町並み、特筆すべきは「四季の家」の
庭園を見ているとき、建物の中で書道をされている

方々が声をかけてくださり、部
屋に上がってお茶や団子をいた
だいたり、目の前で書道をされ
ているお姿を拝見することがで
きたこと。字を書いているとき
の筆使いの音だけしか聞こえな
い静寂から伝わる緊張感に、日
本文化の一面を見せてあげられ
たような満足感を味わった。そ
の上、書かれた書をいただくこ

とができて、アンバサダーにとっても嬉しい一日で
あったようだ。

さいたま市 児島 英子

我が家にステイしたアントニオとグレイシィ夫妻
は日本が初めてですが、日本食が好きで寿司、刺身、
天ぷら、おでん、納豆と何でも食べました。

彼らの希望で魚市場と青果市場を案内することに
なり、彼らが「もし自分たちが早く起きられない場合
は、顔に水をかけても起こして」と言っていたが、早
朝5時に起きてきました。時間はとても正確に守って
くれたため、私自身も動きが楽でした。

家では主人が書道を、私がグレイシィに振袖を着せ、
日本文化にたくさん触れ、「氷川の杜」ではたっぷりの
時間があったため、私たちのプランを全部出しきり、
(お抹茶席、福笑い、兜づくり、盆踊り)ゆかたに兜
をかぶってのサンバ...。とても和やかな雰囲気でした。

さいたま市 細矢 康子

「ようこそいらっしゃいました。スリッパをどう
ぞ」と言ったとたん、靴を脱いで、スリッパを玄関の
タタキに置きなおして、そこから「はじめまして、こ
んばんは」

こうしてゼリア、エチナ、二人の日本の生活がはじ
まりました。夫が「シャワーが水になっているけど、
どうしたのだろう？」恐る恐る彼女たちに聞いてみた。

「いつも20度の温度のシャワーを使っているの
よ。冬でも大体そのくらい...！」

はとバスの中で、「私は東京に来るのが夢だったの。
今夢がかなって東京にいるのね」と感激。毎日毎日
違う文化の体験を、ほんとうに楽しんでいました。

受け入れハイライト

さいたま市 沼 純子

「京都に行きたい」 我が家に受け入れた二人の女性のひとり、エレウザの到着後の第一声です。大国ブラジルから見れば日本はちっぽけで、京都へ行くのも簡単に思えたのでしょう。

いずれも60代で、マリアはFF暦が長いのですが、エレウザは今回初めての渡航でした。二週間の日本でのホームステイを含む四週間の長旅をペアとして過ごす二人は、出発の空港で初めて出会ったそうです。

二人の家は400キロほど離れているそうで、渡航のワークショップもなかったようです。年齢、喫煙、話せる言語などについて、いただいた資料もいろいろ食い違っていました。

何事もおおまかでこだわらないブラジル人と、周到に準備をする日本人。生真面目な日本人に対して彼らは人生をエンジョイする達人と言えるかもしれません。“You are my mother. I love you” 片言の英語で精一杯気持を表し、ブラジルに必ず来るようにと繰り返しつつ、「ブラジル台風」は通り過ぎていきました。



小さな大使

結城市 近藤輝武・文子

我が家のアンバサダーは、ウォーキング好きのセルジオと、7才年上なのに年の差をぜんぜん感じさせないアニータのご夫婦。二人は時間があるといつも散歩に出かけ、近所で22頭牛を飼っている等、私たちの知らないことまで教えてくれました。

セルジオは大の辛い物好きで、お刺身やお寿司にたっぷりワサビをつけて私たちを驚かせ、おみやげにもワサビを買いました。

フリーの日には栗田美術館に行き、帰ってからアニータは、輝武はブラジル料理は嫌いなのではと気遣いながら、ブラジルから持参した材料で、フェジョアダという豆と牛肉と野菜を煮込んだ料理やガーリックライス、セルジオはサトウキビから作ったお酒とレモンでカクテルを作り、デザートは果物から作った羊羹のようなゴヤバダで、私たちを楽しませてくれました。

来年5月に銀婚式だから是非ブラジルに来るようにと言い残して山形に向かう二人を見送りました。あつという間の一週間でした。

さいたま市 稲垣 洋子

アンバサダーとホストの両方を経験してはじめて、Friendship Forceの全体がだいぶ理解できたように思います。

パーティーで気になったことを記しますと、日本語で挨拶されたアンバサダーを笑っては大変失礼だと思います。(いかに日本語がおかしく、下手でも)むしろ、なれない外国語を話される好意と勇気を尊敬すべきではありませんか？



英会話レッスン

Keyword- 5

go

go to + 名詞

goの最も基本的な意味は「行く」で、具体的に場所を伴う場合はgo to... (...に行く)というのが最も一般的な使い方です。日常生活の中で習慣的な動作となっているものがよく使われます。これらの名詞には冠詞がつかないのが普通です。

| | | |
|--------------|--------|----|
| go to bed | ベッドに行く | 寝る |
| go to school | 学校に行く | |
| go to sleep | 寝る | |
| go to work | 仕事に行く | |
| go to church | 教会に行く | |

これに対して、ある個人や特定の場所を意識した表現の場合は冠詞が必要になります。

| | |
|--------------------|-------|
| go to (the) doctor | 医者に行く |
| go to (the) bank | 銀行に行く |

練習

- I want to go to a bookstore.
本屋さんに行きたい。
- You should go to bed now.
もう寝る時間ですよ。
- It is time to go to school.
学校に行く時間ですよ。
- I went to the hospital to get a flu shot.
インフルエンザの予防接種を受けに病院に行ってきた。
- What time did you go to sleep last night?
昨日は何時に寝たの？
- I don't want to go to work.
仕事に行きたくない。



CLUB CALENDAR

- 10月 9日(土) 定例理事会 10:00 ~ 12:00 生涯学習総合センター講座室 1
 11月 6日(土) 茶話会 13:30 ~ 桜木公民館 7F 講座室 2
 11月 21日(日) 関東ブロック会議 場所未定
 12月 12日(日) 臨時総会及び懇親会

理事会報告

2004年9月11日(土)

報告事項

1. ブラジル受け入れについて
 - ・無事終了した
2. 各係より
 - ・会計 = 月次報告
 - ・事務局 = 斉藤陽二会員、8月11日逝去
3. その他
 - ・新しいFFパンフレットができた
 - ・11月21日 関東ブロック会議

審議事項

1. 茶話会について
 - ・会場確保 11月6日 45名定員
 - ・会場の都合上、日程を11月6日に変更する
 - ・場所：シーノ大宮5F 桜木公民館 講座室2
 - ・茶菓を用意するが、経費は活動費から支出する
2. 2005年交換EDについて
 - ・受け入れ 5月ラトビア...岡田一夫氏推薦
10月カウアイ...野澤明子氏決定
 - ・渡航 6月イギリス...佐藤ゆきえ氏推薦
3. 臨時総会・懇親会について
 - ・臨時総会は午前中に行う
 - ・懇親会については後日審議
4. その他
 - ・斉藤氏香典 5000円とする
 - ・家族のネームバッジを希望する人は、申し出があれば実費で作成する(紛失した人も同様)

マガジン購読のみなさまへ

マガジンの発行が遅れています。今年の第2集は間もなくお手元に届くそうです。第3集は11月中旬、第4集は2005年2月初旬までには届くそうです。

2005年度の購読申し込みが近づいてきました。購読ご希望の方は事務局までご連絡ください。

事務局：048-651-2210

編集後記

さわやかな秋空はどこに行ってしまったのでしょうか。今年も残り2ヶ月余となりました。皆様のご協力で、交換もすべてが無事に終わりました。残りの行事も楽しみましょう。

理事会報告

2004年10月 9日(土)

報告事項

1. 2005年交換EDについて
 - ・受け入れ 岡田氏 ラトビア(5月)
野澤氏 カウアイ(10月)
 - ・渡航 佐藤氏 イギリス(6月)
上記3名に決定
2. 各係より
 - ・会計 = 月次決算報告
 - ・事務局 = FF埼玉のメールアドレスは
saitama@friendshipforce.jp
 - ・FFIよりの諸連絡

審議事項

1. 茶話会について
 - ・すでに全会員に連絡済み
 - ・ニュースレターで再度お知らせをする
2. 役員改選について
 - ・選考方法について討議した
3. その他ブロック会議
 - ・11月21日(日) 15:00 ~ 17:00 場所未定
 - ・東京クラブより議題についてのアンケート
情報交換

茶話会は11月6日です!

今年も楽しいひとときを過ごしましょう!

どんな交換体験談が聞けるでしょうか。皆さんの要望などもお聞かせください。お茶とお菓子で気軽におしゃべりしましょう。ご参加をお待ちしています。

訃報

会員の斉藤陽二さんが8月11日逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集・発行

ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉 事務局
 〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 4-69-19
 TEL: 048-651-2210 FAX: 048-667-2796
 発行日 2004年10月15日 第62号